

八女市議会議長

角田 恵一 様

2020 年 10 月 20 日

八女市議会議員

森 茂 生

政務活動による研修報告書

1, 研修日時 2020 年 10 月 13 日～16 日

2, 研修場所 北海道下川町、音威子府村、新十津川町

3, 下川町の概況

人口：30,207 人 高齢化率：40, 1%

面積：644 K m²

森林：569 K m² (総面積の 88%)

①持続可能な地域社会の実現に向けて

下川町 14 日午前 9 時より まちおこしセンターコモレビ

森林商工振興課バイオマス産業戦略室 室長 山本敏夫氏

下川町の面積の 88% が森林

昭和 28 年国有林から 1200 ha を払い下げ

50 ha 植林×60 年伐採の町有林経営

国有林の追加払い下げにより現在 4600 ha

平成 15 年「FSC 森林認証」取得（北海道初）



循環型森林経営を基盤として

通年作業・通年雇用

森林のカスケード利用

下川町森林組合では1本の原木から、円柱材・集成材、木炭に加工しており、木炭製造の副産物として生じる木酢液は付加価値を高めるため材木に浸透させ、燻すことで防腐効果のある燻煙材として活用しています。

またトドマツの枝葉は株式会社フブの森で精油とするなど、森の恵みを余すことなく地域全体で有効活用しています。

森林資源の様々な活用（公共施設等の木質化）



（下川町産シラカバを使った床材使用）



（医療植物研究施設）



（小中学校内の木質化）

※役場庁舎内、公民館、住民センターその他様々な公共施設の木質化が進められている。

カーボンオフセット実施プロジェクト

現地視察

NPO 法人 しもかわ観光協会 事務局長 高松 峰成氏

木質原料製造施設 貯木場



木質チップ製造機械



木質チップ貯蔵施



ここで製造されたチップが町内のバイオマスボイラーを使っている数々の施設に供給される。

一の橋地域熱供給施設



標津線（しべつせん）

1989年（平成元年）4月30日に
全線廃止となった。

遺品として残されている。

一の橋地区はいわゆる「限界集落」で廃村寸前だったが、なんとか存続させなければならぬということで、「エネルギー自給型集住化エリア整備」による集落の再生をはかる。





一の橋地区の全景

2つのバイオマスボイラーで地区全部の住宅やその他のすべての施設へ供給される。



超高齢化、人口減少、コミュニティの極端な活力低下等を解決する。

- ・地産エネルギーの自給
- ・地域資源を活用した産業創造
- ・コレクティブ（集住化）でコミュニティの活性化
- ・次世代に向けた持続可能な集落をデザイン化



- ・長屋風の廊下で繋がった26戸の集合住宅
- ・警察官立寄所と郵便局が入った「住民センター」
- ・宿泊交流、長期滞在が可能な「宿泊ハウス」
- ・集住化住宅と近隣地域の給湯・暖房を賄う「地域熱供給システム」
- ・ミニショップ・地域食堂としての機能を備える交流プラザ「駅カフェイチノハシ」
- ・新たな産業創造：「特用林産物栽培研究所」、
「コンテナ苗育苗試験」、企業誘致：薬用植物研究」



北海道の第1の印象は広い。道も広く真っ直ぐ、田畑の面積は九州では考えられないほど広い。

千歳空港に14時頃着きJRで札幌へ、札幌で乗り換え旭川までいき、さらに宗谷本線で名寄まで。名寄から最終バスに乗りようやく目的地の下川町へ、着いたのが21時過ぎ。JRやバスの便数が少なく待ち時間が長かったこと。

まちおこしセンターで 森林商工振興課バイオマス産業戦略室の山本敏夫氏よりバイオマスの概要の説明を聞き、しもかわ観光協会の高松氏の案内で現地視察へ。

最初に木質原料製造施設や貯木場の視察。それから、「一の橋」地区へ。

一の橋地区は下川町中心部より12キロ離れていて消滅寸前の集落を再生させたという地区。写真にあるように、とても消滅寸前の集落とは思えないほど、見事に再生した集落。

再生の原動力は何といっても町の政治姿勢が住民本位の考え方が根っこにあったからだろうと思う。考え方も、施設も大変立派だと関心しました。

人口3,000人の町でもこれほどのことが出来るのである。果たして現在の八女市でこのようなことが実現可能であろうか、疑問です。

もともと、このような考えや政策そのものの発想が出てこない、考えても市長の政治姿勢がそのような方向に向いていないため、忖度して考え、思っても提案できない何かがあるのでは。

いずれにしろ、地域の活性化、二酸化炭素削減は数値目標まで設定しているのだから、どのような方法を取るにしろ、必ず取り組まなくてはならない課題である。

第1、国の姿勢が一番の問題である。二酸化炭素削減の目標のパリ協定の第1回目は参加したが、第2回目以降の協定には参加すらしていない。肝心の国の姿勢そのものの本気度が問題である。

「わが亡きあとに洪水はきたれ」フランス王ルイ15世の愛人であったポンパドゥール侯爵夫人の言葉とされる。

日本語に訳すれば「後は野となれ山となれ」(後のことは俺の知ったことではない)果たしてこれでいいのでしょうか？



小中一貫校ではない、ただ一緒に敷地に小学校と中学校があるだけ

北海道おといねっぷ美術工芸高等学校

音威子府村の人口が 707 人そのうち美術工芸高校の生徒が 120 人、その関係者を含めれば 180 人程度と言うことだ。・・・村にとって一番大きな存在だ。



音威子府村 (おといねっぶむら)

北海道で一番小さな村

音威子府村の人口

令和 2 年 9 月末現在

人口: 707 人

男: 367 人 女: 340 人

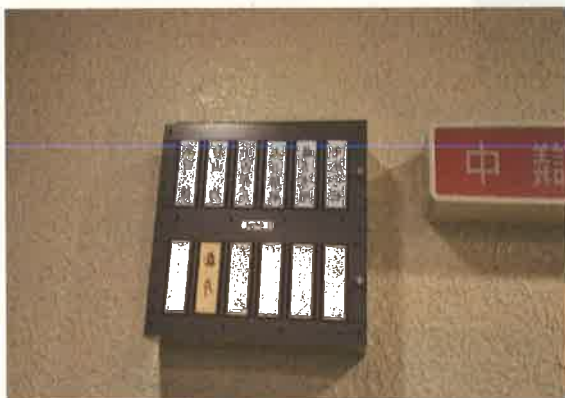
世帯数: 464 世帯

一般会計当初予算額 19 億 8,300 万円



名寄駅を過ぎた頃 JR の車内アナウンスで「これより先エゾシカなど野生動物が出没する地域を走行しますので、やむを得ず急ブレーキをかけることがあります・・・・・・」と放送が流れる。線路の脇は、確かにクマザサが生い茂りシラカバなどの木がうっそうとしている地域を走り続ける。全く人家や人の姿が無い。

(議員定数 6 人)



対応していただいたのは、議会事務局長の上野敏治氏。「定数は 6 人で少なすぎて話し合いが出来にくい。常任委員会も 2 つはつくれない。最低 10 人は必要だ」と。

確かに 6 人ではすくな過ぎると思う。議場を拝見したが 12 人分の椅子はあるが、2 人分を 1 人で使っている現状、以前は 12 人だったのだろう。

議員の報酬及び特別職給与

区分	現行	区分	現行
議長	191,000 円	村長	578,000 円
副議長	142,000 円	副村長	493,000 円
常任委員長	132,000 円	教育長	468,000 円
議員	123,000 円		

(生徒の作品)



世帯数および人口推移（住民基本台帳は 9 月末人口）

年	世帯数	人口		計	一戸 あたり	備 考
		男	女			
昭和 10 年	675 世帯	2,095 人	2,026 人	4,121 人	6.1 人	国勢調査
昭和 15 年	607 世帯	1,961 人	1,681 人	3,642 人	6.0 人	国勢調査
昭和 20 年	676 世帯	2,101 人	1,890 人	3,991 人	5.9 人	国勢調査
昭和 25 年	738 世帯	2,123 人	2,061 人	4,184 人	5.7 人	国勢調査
昭和 30 年	758 世帯	2,072 人	2,035 人	4,107 人	5.4 人	国勢調査
昭和 35 年	820 世帯	1,927 人	1,959 人	3,886 人	4.7 人	国勢調査
昭和 40 年	889 世帯	2,215 人	1,755 人	3,970 人	5.4 人	国勢調査
昭和 45 年	763 世帯	1,477 人	1,362 人	2,839 人	3.7 人	国勢調査
昭和 50 年	721 世帯	1,339 人	1,213 人	2,552 人	3.3 人	国勢調査
昭和 55 年	774 世帯	1,093 人	1,007 人	2,100 人	2.7 人	国勢調査
昭和 60 年	832 世帯	1,144 人	924 人	2,068 人	2.5 人	国勢調査
平成 02 年	563 世帯	819 人	765 人	1,584 人	2.8 人	国勢調査
平成 07 年	619 世帯	823 人	657 人	1,480 人	2.4 人	国勢調査
平成 12 年	523 世帯	721 人	613 人	1,334 人	2.6 人	国勢調査
平成 17 年	457 世帯	555 人	515 人	1,070 人	2.3 人	国勢調査
平成 22 年	486 世帯	540 人	455 人	995 人	2.0 人	国勢調査
平成 27 年	405 世帯	435 人	397 人	832 人	1.9 人	国勢調査
平成 28 年	506 世帯	418 人	383 人	801 人	1.9 人	住民基本台帳
平成 29 年	494 世帯	402 人	376 人	778 人	1.9 人	住民基本台帳
平成 30 年	493 世帯	402 人	368 人	770 人	1.9 人	住民基本台帳

この村の人口の推移を見れば昭和 30 年頃は 4,000 人以上いた人口がその後減り続け現在の人口は 707 人と言うことだ。(前ページの表参照)

下川町でもいえることだが、JR の廃止で急速に過疎化が進んだと言われているが、この音威子府村でも天北線の廃止が大きく影響している。

音威子府村は天北線と宗谷本線が合流する村で非常に活気のある村だったようだ。しかし、天北線の廃止で急激に人口が減少したようだ。

天北線は、音威子府～浜頓別～稚内間 141.9km を結んでいた鉄道路線。戦前は日本領だったサハリンと北海道を結ぶ最重要幹線として、1914 年から 1922 年にかけて国鉄宗谷線として建設された。1926 年に現在の宗谷本線に相当する天塩線音威子府～幌延～稚内間が開通するとこちらが本線格となり、旧宗谷線はローカル線として 1930 年に北見線に改称。天北線に改称されたのは 1961 年のことだった。

北海道内でも有数の赤字ローカル線だったが、1961 年から廃止直前の 1989 年までは札幌直通の急行『天北』も運行されており、幹線だった時代の名残を見せていたが JR 北海道へ承継後の 1989 年 4 月 30 日限りで廃止された。

上音威子府駅は 1914 年、音威子府～小頓別間の開通にあわせて開業。最盛期には駅周辺に 400 人以上が暮らしていたが、天北線の廃止から 26 年あまりが経過した現在、周辺は無人で、ホームのみが残存している状態だという。



一般国道 275 号から細い砂利道を上ると、上音威子府駅跡があった。建物は解体され現存しない。
1993 年 5 月 1 日撮影。

新十津川町

総合福祉センター 午後2時より

(説明を受けた人)

総合福祉センター長 長島 史和

総合福祉センター次長 岡田 理恵

その他2名

人口 6,545人 面積 495.47km²



視察内容

- 1, 3子以降の保育料・学校給食の無料化について
- 2, 新生児聴覚検査に係る費用助成事業。 不妊治療費助成事業について

新十津川町の人口は6,500人で八女市の約10分の1程度、音威子府村の人口は更に少なく700人程度。地方自治体は、単に人口が多いか少ないかがあるだけで、基本的な取り組みについてはさほど違いはないと感じる。予算でいえば住民1人当りの予算額はさほど違いはないのかなと思います。

人口が多い分、予算額も増えるが、とどのつまりは住民の暮らしや福祉の向上にどれだけ真摯に取り組んだか問われるのでは。人口の多い自治体が住みやすいかとは一概にはいえないのでは。

八女市でもおこなっていない、3子以降の給食無料化、新生児の聴覚検査助成を実施している。不妊治療助成は八女市でもおこなっているが、一般不妊治療の助成額は八女市上限額が3万円だが新十津川町は20万円、特定が八女市上限額5万円だが新十津川町は10万円である。



(新十津川町とは)

新という字が頭に着くように、新ではない母村の十津川村が奈良県にある。一度だけ十津川村に行ったことがあるが、とにかく山間地ばかりで平地がほとんどない地域だという記憶がある。

開拓史より

明治 22 年 8 月奈良県吉野郡十津川郷で大水害が発生。奈良県吉野郡一帯をとてつもない豪雨が襲った。

その中に「鳥も通わぬ十津川の里」と太平記にかかれた山村・十津川村があったのである。山や谷壁がなだれ落ち溪谷をせきとめ、せき止められた大量の水が堰を切って濁流となり、怒涛のように向かっていく…。

当時、6 カ村からなる十津川郷は壊滅的な被害を受けるほどの大水害であった。死者 168 人、全壊・流出家屋 426 戸、耕地の埋没流失 226ha。山林の被害も甚大。生活の基盤を失った者は約 3000 人にのぼり、その救済策が急務であった。

新たな生活地を求めて 600 戸、2489 人が北海道への移住を決断。「必ずや第 2 の郷土を建設する」と固い意図を胸に秘め旅立つことになった。10 月に 3 回に分かれて神戸から船に乗り小樽へ。

このころ約 1200 キロ離れた北海道では、屯田兵制度に続いて明治 19 年には植民計画が採用され、全道的な開発が始まろうとしていた。特に樺太経営とロシア南下への防備対策から、石狩平野開拓は緊急課題であった。



川がせき止められ湖が出現



山崩れの負傷者



故郷を見納め北海道へ



現在の新十津川町の町並み

行くも地獄、残るも地獄で当時の人々の苦労は、私達に想像も出来ないほど過酷なものであっただろう。新十津川町開拓資料館を見学した。当時の資料が数多く展示されている。この新十津川人は奈良の十津川のことを「母村」というそうだ。切っても切れない歴史の重みを感じるところです。

(JR の廃止)

JR 北海道の平成 28 年 3 月 26 日のダイヤ改正で、JR 札沼線の終着駅である新十津川駅を出発する便が、これまでの 3 便から 1 便になり「日本一早い最終列車が出る終着駅」となりました。

JR 北海道から申し出のあった線区廃止について、沿線 4 町が同意書を提出し、2020 年 5 月 7 日をもって、廃線となることが決まりました。

JR 札沼線（北海道医療大学～新十津川間）の最終運行は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、急きょ 2020 年 5 月 6 日から 4 月 17 日に前倒しとなり、5 月 7 日をもって廃線となりました。

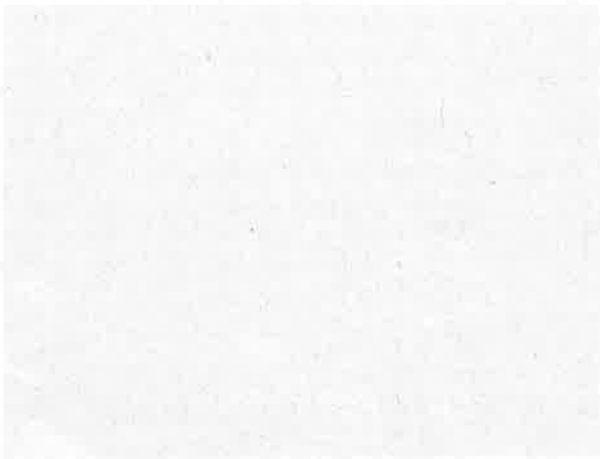
(まとめ)

北海道の小さな自治体を 3 カ所視察したが、八女市と同じく少子高齢化が進んでいる。ある意味全国的な流れで仕方がない気がするが、この 3 自治体の共通する、一番の直接的原因が国鉄、もしくは民営化した JR 鉄道の路線の廃止があげられる。八女市も矢部線が廃止になった。国鉄の解体により合理化、廃止されたのが地方のローカル線だが、特に北海道が一番ひどいのではないかと感じる。

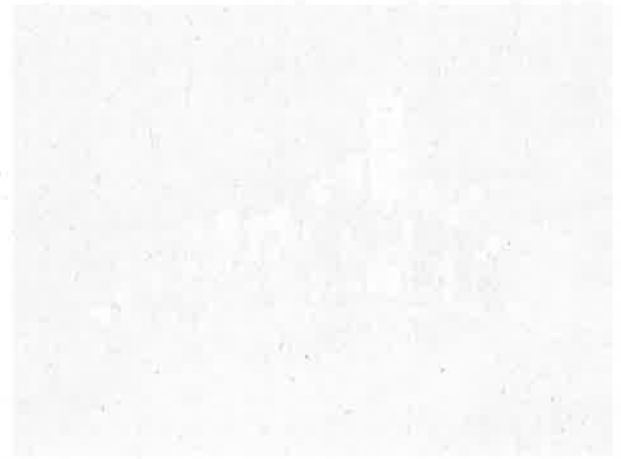
北海道に共通するもう 1 つが、九州では考えられないほどの雪である。一晩で 1 メートル以上も積もるらしい。トータルすれば新十津川町でも 8～10 メートルにはなるようだ。

音威子府村で雪はいつ頃から降りますかと聞いたら、雨が降っていたので、「明日、山頂

は白くなっているでしょう」いうことだったが、本当に翌日は山が白くなっていた。



雪の降った翌朝、雪に覆われた



山が白くなっている様子